

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「カミーユの薔薇」

テーマ：「吸血鬼なのに、賛美歌が持ち歌な美少女」

キャラクター

40

ストーリー

40

テーマ(設定)

45

文章力

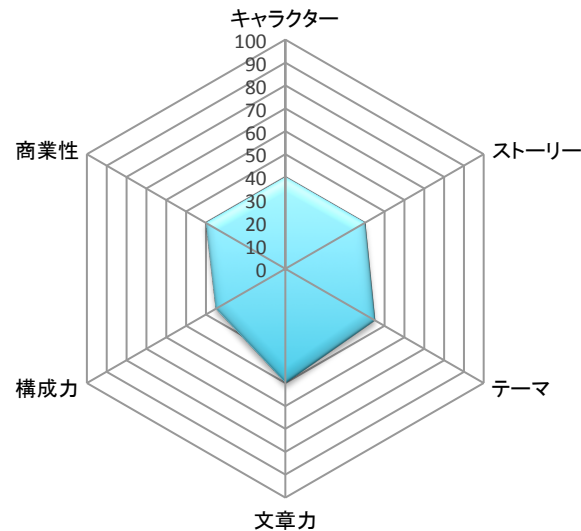
50

構成力

35

商業性

40



・見受けられる基礎的な問題点

- キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- キャラクターの行動に動機がなく、物語が都合展開になってしまっている
- 物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- 物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- 物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- 意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- 時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- 物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- 文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- 伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- 笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- 「この作品の最大の魅力はこれ!」というものが無い

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

ジャンプの打ち切り漫画のような不完全燃焼感が残る作品であった。ただ恐らく作品投稿時間×切との勝負になり、本当はもっと書けたのにと作者様自身が考えていると思われるため、この点については深く言及はしない。・作中で視点変更される場面が何度か見受けられるが、視点変更の利点は本来物語全体の多面性を描けるということにあり、当作品ではその利点がうまく使われておらず逆に物語を分かりにくくしてしまっているだけという印象が見受けられた。提案ではあるが、いっそ思い切ってローラン目線で物語を描ききるという手法も、ハイリスクではあるが面白く挑戦する価値のある手法なのではないかと感じた。・そのローランについて、初見であると描だと気付けぬあまりに読んでいて「?」となってしまう箇所が見受けられる。叙述トリックというよりはただ読んでいる側に不自然さを与えてしまっただけのきっかけとなってしまうため、描だと気付けさせる描写を分かり易く序盤に挟んだ方が無難であったかもしれない。・作中に突然ローランドさんが出て来ているため注意。文章は非常に繊細で、作者様自身の「丁寧に物語を紡ごう」という気持ちが伝わって来る。この描写力は今後作品を書く際にも非常に価値ある武器になると考えられる。この才能は是非大切にしたい。・作品投稿期間外で投稿したことによるペナルティ(-10×遅延分数)

合計減点ポイント：-10

総得点： 250 / 600

B方式総合得点： 9417 点